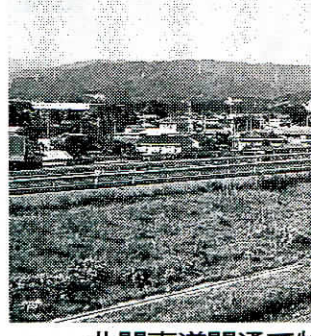


北関東道全線開通を
年度中に物流業者への
を立ち上げる。誘致の
調査も行う方針で、民



北関東道開通で物

や北関東道に於けるイ
メーシなどを尋ねる。
業界団体関係者や学識
経験者でつくる物流施
策推進会議を設置して
拠点整備の課題を洗い
出すほか、シンポジウ
ムを通じて県民への理
盛り込んだ。

県内で受注集に直面し
ている中小製造業者は
数多い。業者が販路を
確保できるよう、本県
を除く関東各地で年度
内5回、製品を展示
して技術をアピールす
る形式で商談会を開

の2人から4人に増
の上新新聞社を訪れ、
の観光イベントや景観の
美しさなど秋の藤沢市
の魅力をPRした。写
真。

湘南海岸や江の島な
の観光客にききわら
川原市。毎年秋以降もイ
ベントを実施し、一層
の集客を図っている。
「海の女王」の坂口
遥さん(20)は17日から
約2カ月間開かれる観

多士放談

7月に東京で開かれた農業の
ビジネスコンテスト「A-1グ
ランプリ2011」の決勝大会
で、県内の中小企業経営者など
でつくる「下請の底力」取締役
の羽広保志氏(42)が最高賞を獲
得した。考察、実践した農機具
のカスタマイズ計画が、農業の
効率化を後押しするなどとして
評価された。

―全国各地から応募した18
6人の頂点に立った。

グランプリは地方予選大会の
段階から、農業の専門家が素晴
らしいビジネスモデルをいくつ
も発表していた。自動車や建設
機械関連の部品加工を本業とす
る自分が受賞できたことは今で
も驚き。逆に言うと、これでニ
ーズがあることがあらためて確
信できた。

―金融危機後の景気低迷を乗

羽広保志氏 (42)

「下請の底力」役
取締役

り越えようと2009年8月に
「下請の底力」を結成。2年た
ち、活動が結果に表れた。

農機具のカスタマイズを始め
たのは農家からの依頼がきつ
け。このため改造や最適化をす
る際は、農家と対話し、実際の
使い勝手などを聞きながら調整
を進めてきた。今大会ではこれ
まで手掛けた案件を、できるだ
け分かりやすく、具体的に説明
するように心掛けた。例えば、
小型トラクターの部品を一つ変
えただけで、生産効率が大幅に
向上したケース。これからもニ
ッチなニーズを吸い上げ事業に
生かしたい。

―今後の目標は。

事業を汎用化して日本中から
アイデアを募りたい。具体的に
はフランチャイズ化することが
一つの道だと考えている。ネッ
トワーク化すれば全国で平等な
サービスを提供できる。それは
農業の効率化につながる。

コンテストで最高賞

はびろ・やすし 1969年、桐生市生まれ。桐生工業高
日本文理工学部を卒業後、部品の複合加工を手掛ける家業
のユニーク工業(太田市山之神町)に入社した。現在は専務。



―「超円高」やエネルギー問
題など国内製造業は数多くの課
題に直面している。

東日本大震災後は本当に大変
だった。来るべき仕事が来な
ったり、電力不足で作業が滞っ
たり。取引先の大手メーカーが
海外移転を加速すれば、産業空
洞化は避けられない。でも、そ
れらを責めても仕方ない。下請
けは下請けなりに、大手にはで
きない仕事をして生き残る。農
機具のカスタマイズはその一

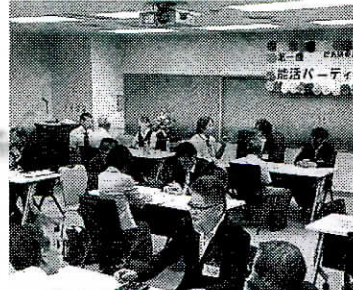
つ。これからも日本に眠る小
なニーズを掘り起こしたい。

「A-1グランプリ2011」は農業
技術通信社が主催し、09年大会
に続き2回目。プロの農業生
産者だけでなく、学生や異業種
の経営者、新規就農者、農業
委員会や選考委員にも農業の
垣根を越えたメンバーが顔を
そろえる。今後も定期開催さ
れる予定。

トピックス

高齢者と事業者 技能求め交流会

高崎



知識や技術を持つ高
年齢者と、その技能を
必要とする事業者に向
談の場を設ける「能
活パーティー」が7
日、高崎市のピエント
高崎で開かれ、新たな
活躍の場を求める定年
退職者らと事業者が交
流した。

パーティーでは、企
業やNPOが事業概要
を説明。続いて退職者
らが「世の中のために
役立つ仕事がしたい」
「生産技術を若い人に

退
交
イ